月刊 あだフレ

176号

今後の練習のご案内

2月18日（日）	12:00 ～ 15:00
3月10日（日）	12:00 ～ 15:00
3月24日（日）	12:00 ～ 15:00

千寿本町小学校 スリッパ持参

参加費:1000円

団長及び係について

長年団長をつとめてくださった岩崎さんから、そろそろ団長を交代したいと申し出がありました。また今まで団運営は少ない人数でやっていきましたが、役員・係１人１人の負担軽減、そして係の方がお休みした時等にも不都合がないように、今後は多くの団員にも係をやっていただきたいと思います。

●団長：１人

●会計・会計監査：３人（現在ソプラノ山崎さんお一人でやってくださっています）

●春ふれ会議係：３人（5 回程度、日曜夜。場所：梅島等）

●合唱祭、合唱連盟総会係：３人（５回程度、総会は 12 月に１回のみ。主に火曜夜。場所：梅島等）

●連絡係：2 人（お休みした方に月刊郵送。現在、高嶋さんお一人でやってくださっています）

●楽譜・音取りＣＤ管理：2 人

●パート係：ソプラノ２人、アルト２人、男声１人（台風などの災害時、練習が急に出来なくなった等のパート内団員への連絡）

●会場係：（浅沼さん、アルト山崎さんがやってくださっています）

●受付係：佐藤さん、藤代さんをはじめ数人でやってくださっています。

団長・これらの係の立候補及び推薦を２月４日に配布した用紙に記入いただき、２月１８日・３月１０日の練習時に提出してください。

ぜひ多くの方々の立候補をお願いします。

あだちフレンズハーモニーは、総会をやっていません。団へのご意見・ご提案がありましたら、ご記入いただき提出してください。

皆さんで協力しあい、気持ちよく歌える団にしていきましょう。

春のふれあいコンサート

４月１４日に出演する『春のふれあいコンサート』の出欠を２月の練習時からとります。

参加費は５００円です。

当日の出演時間等は、次号の月刊あだふれ、

及び当団ホームページでお知らせいたします。

陶山先生から

皆さん、お元気ですか？

今年も１月が終わりました。

長男に二人目の子供（女の子）が生まれたのですが、公務員である長男は「育休」を１か月取ることにしたようです。話を聞くと周りでも「育休」と取る男性はとても多いそうで「1か月は短いくらい」だと言っています。

僕のような立場からするととてもうらやましい話で、僕などは休みを取ると、そのまま収入に響いてくるのですが、長男は 8 割支給されるそうです(来年から 10 割になるそうです)。

奥さんは看護婦なのですが、市立病院に努めていて、こちらは産後一年は 10 割、二年目からは 8 割支給されるそうです。とても良い時代になったと思います。

ところで、「子供が少ない」と言われ問題になっていますが、それは仕方ない面もあります。

そもそも、なぜ少子化が進むのか。

まず、国が経済的に豊かになると都市化が進み知的労働（ホワイトカラー）が増え、それに伴い一人当たりの教育にお金がかかります。

例えば農家の子供（ブルーカラー）は実際にはほとんど学歴はいりません。これは差別していっているのではなく、僕の曽祖父が実際に勉強が好きでたまらなかったのに、農家だったためにあきらめた、という話をしていたからです（もちろん現代の農業はかなり様変わりしていることも知っています)。そうなると経済的にたくさんの子供を産めない（一人当たりの子供に教育費用がかかるから)。昔は中学を卒業すれば一人前でしたが、今は多くの男女が大学、あるいは大学院にまで行きます。その分費用は膨大にかかってきます。

また、昔に比べ教育が重要視されることから、教育の期間が延び、ある一人の子供が教育を終え仕事につき結婚をすると時期が大幅に遅れます。以前は 16 歳で結婚してすぐに子供を産む、ということがあたりまえでしたが、今では 30 歳を過ぎて最初の子供を産むことは当たり前になっています。そうすると、昔のように 5 人も 10 人も子供を産むことは不可能で、多くて 2 人～3 人でしょう。森鴎外は子供が 6 人です。

さらに、成熟した社会になると、価値観（特に女性の）が多様化してきます。

昭和までは当たり前に使われていた「女性は結婚して子供を産むことが最も幸せなことだ」という考え方は、今では少数派になりつつあります。そして女性の社会進出のおかげで有能な人材が確保できて、より豊かな社会になっていることは事実です。また、女性にも多く

の選択肢が用意され、自分の好きなように生きることができます。これは一面ではとても豊かな社会と言えます。つまり、「女性は結婚して子供を産むことが最も幸せなことだ」と思う女性はそうすればいいし、そう思わない女性はそうしなくてよいのです。以前は、社会や世間から一つの価値観だけを厳しく強制されていました。それが変わってきた。もはや「結婚」「子供」だけが、女性の最重要の価値観ではない。

長男夫婦のように「仕事もしたいが子供も欲しい」ということを思っていればそうすれば良い。選択肢が増えたわけです。成熟社会でしかありえない「育休」が夫婦ともとれる、というとても幸せな境遇にあると思います。この制度も多くの「社会進出した女性」のおかげで成立したのだと思われます。

いろんな人がいるので、子供がいなくなることは決してありませんが、この流れ（少子化）は今後も続いていくと思われます。もちろん人口も減少していくことは確実で（現在の半数にまでなるそうです）、弊害もたくさん出てきます。でも、先ほど書いたように成熟社会には良いこともたくさんあります。うまく乗り切っていきたいと思います。

では今日も楽しく歌いましょう。

田辺先生から

皆さま、こんにちは。お元気ですか？

今日は楽譜のお話を書こうと思います。私が楽器を習い始めたのは６歳の６月。『習い事・芸事は６歳の６月６日から始めると上達する』という言い伝えのとおりです。最初に習った楽器は電子オルガン（エレクトーン）。これが私に合っていたのでしょうね。どんなジャンルも演奏できたので好きでよく練習していました。先生も発表会以外の演奏会に出させてくれました。

中学３年の時です。あるオーケストラ曲が気に入り、どうしてもこれをエレクトーンで弾きたい！と思ったのです。ところが楽譜がない！　当時は今ほど多くの楽譜が出版されておらず、今のようにネットなどで簡単に手に入る時代ではありません。

そこで私はお年玉でその曲のオーケストラ楽譜を買いました。輸入版の楽譜しかなかったので、当時の中学生にしては高い金額です。ところがオーケストラの楽譜の読み方が分からない、楽器学の本を買って独学です。そして何ヶ月かかったかは忘れましたが、自分でエレクトーン用の楽譜に編曲し、手書きで楽譜を書き、練習しました。

こういう作業が楽しくなり、高校の３年間は発表会と他の演奏会の為に、オーケストラ曲

を探して、自分で楽譜を書いて弾くということをしていました。楽譜を書いては、その楽譜のコピーとオーケストラ楽譜を先生に渡し『みてください』という変な生徒でした。

自分が教える立場になってから思いますが、こんな生徒いたら、正直面倒くさいなぁーという子です(^^;;

ところが今の時代は、どんな曲でも楽譜が市販されていて、楽譜屋に行かずともインターネットで楽譜を買うことができる。中には『〇〇を楽譜にしてみました』と珍しい曲を楽譜にして公開している人もいるようです。昔のようにオーケストラ譜を見ながら楽譜を手書きしてーという生徒はほとんどいないでしょう。

今思えば、自分のわがまま（これ弾きたい）で始まったことですが、すごく勉強なり、今でも活かされていると思います。

このわがままが、〇〇年経っても継続中で（笑）、この曲を鍵盤ハーモニカで演奏したい→オーケストラ譜や色んな楽譜と睨めっこして、楽譜（時代は変わって、手書きではなくパソコンで書いています）にし２４日のコンサートでは鍵盤ハーモニカで演奏します。

コンサートのメイン曲はこれではなく、歌芝居？　歌物語ですが。

歌でもどんな楽器でも作曲されて残されている作品はどれも素晴らしいもの。

それらの作品を演奏し紹介するのも演奏する側の役目だと思っています。

ということで、２４日にコンサートをやります。是非お時間のある方は聴きにいらしてください♬

コンサートのお知らせ

早春コンサート

２月２４日（土曜日）午後２時開演

本郷三丁目　名曲喫茶カデンツァ

出演：田辺意久美、陶山高志

曲：キツネがだまされた話、お菓子と娘、夢のあとに、さくら伝説　他

全席自由　2,000 円

お問い合わせ　080-5521-0445（田辺）

ホームページ

あだちフレンズハーモニーのホームページには、過去の「月刊あだフレ」、今後の練習日、音取り音源（youtube）、過去の演奏等が載っています。また練習日記には、その日に練習した内容が載っています。復習に是非ご活用ください。

http://adafre.web.fc2.com/index.html

月刊あだフレ第176号

2024. 2. 4 発行